

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4150780015		
法人名	社会医療法人 祐愛会		
事業所名	グループホーム ゆうあい		
所在地	佐賀県鹿島市大字高津原2962-1		
自己評価作成日	平成29年1月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成29年3月8日	外部評価確定日	平成29年4月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が自由に、その人らしい生活が続けられるよう、一人一人の笑顔を大切に支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

平成12年に、「家庭的な環境で利用者がその有する能力に応じて自立した日常生活を営むことが出来るように支援する」ことを基本方針として開設した事業所である。現在17年目を迎え、それだけに認知症支援についての経験も豊かで、利用者の尊厳の尊重を大切にし、利用者中心の運営が行われている。利用者の一人ひとりがその方らしい暮らしが送れるようにと、全職員が心を合わせて、毎日の支援に臨んでいる。ホーム長や経験豊かな職員が、これからという職員を具体的に助言、指導している。それは、お互いに勉強の場ともなっている。職員の発想から生まれた家族を含めた毎月のイベントは、家族同士の交流のよき機会ともなっている。家族同士がうちとけ、認知症介護の本音が言える場ともなっている。家族同士、家族と職員の信頼関係も生まれている。利用者が入院した際に、職員が毎日病院に来てくれたと感謝している家族もある。利用者の健康状況の変化にも主治医と連携を保ち、利用者と家族に安心感をもたらしている。看取り介護にも真摯に対応している。重度化や看取り介護に備えたきちんとした指針が準備されており、利用者、家族、主治医、スタッフ等が方針を共有し、支援にあたる体制ができており、利用者の安らかな最期を見送ったことも多い。毎月の音楽療法による支援もこの事業所ならではの工夫点である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(一丁目)	自己評価／ユニットB(二丁目)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼でケア理念を唱和している。地域の方との交流の面で理想に近づけていない。	毎朝、朝礼でケア理念を唱和している。地域の方との交流の面で理想に近づけていない。	事業所開設当時の運営理念に地域との交流を深めることを意識して再検討し、現在の理念ができあがっている。年度当初の会議で理念を確認する、毎朝唱和する、常に職員が目につくフロアーに掲示する、具体的にホーム長が指導、助言することで共有化を図っている。職員は理念を常に心において支援に臨んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に地域の区長や民生員に参加してもらっている。近隣地域の小学校と交流や地域の消防団との防災訓練など行っているが、日常的な交流ができていない。	運営推進会議に地域の区長や民生員に参加してもらっている。近隣地域の小学校と交流や地域の消防団との防災訓練など行っているが、日常的な交流ができていない。	法人全体が地域の自治会に加入している。回覧板や区長を通じて地域の情報を得ている。職員が自主的に地域の行事、清掃などの奉仕作業、県下一斉の美化作業等に参加している。ただ、地域住民が気軽に事業所を訪れる等の交流は不十分である。	近所の方が気軽に事業所を訪れる、利用者がホームの外に出た際の散歩時等の時に、挨拶や会話を交わす等の日常的な交流を課題としている。近所付き合いが気軽にできる方策の再検討を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地区の代表者については理解を求めており、認知症カフェを開催するなどして、少しずつ地域の方に向けた活動ができています。	運営推進会議で地区の代表者については理解を求めており、認知症カフェを開催するなどして、少しずつ地域の方に向けた活動ができています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの行事や取り組みを報告し、頂いた意見を検討し実践している。	ホームでの行事や取り組みを報告し、頂いた意見を検討し実践している。	年6回の開催である。報告等の後、意見交換が行われている。地域消防団に施設を知ってもらうための取り組み、事業所からの情報発信、地域での介護教室の開催、自然災害時の避難経路の見直しなどの意見も出され、現在検討中である。意見として出された、ため池氾濫に備えての計画も策定できている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(一丁目)	自己評価／ユニットB(二丁目)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議開催のお知らせを直接市の職員に手渡しに行き、会議に市の担当者に参加してもらい意見を頂いている。	運営推進会議開催のお知らせを直接市の職員に手渡しに行き、会議に市の担当者に参加してもらい意見を頂いている。	運営推進会議時だけでなく、管理者は必要に応じて、市役所の福祉担当課などに出かけ、情報や課題を共有している。制度的なことを話し合うこともある。運営推進会議で出された自然災害に対する懸念を行政に伝え、その結果、ハザードマップに反映されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会へ出席し、定期的に勉強会を行い、身体拘束廃止マニュアルに沿って身体拘束ゼロに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会へ出席し、定期的に勉強会を行い、身体拘束廃止マニュアルに沿って身体拘束ゼロに取り組んでいる。	外部研修、法人の委員会、年間計画による勉強会等を通じて、全職員が身体拘束の弊害をきちんと理解、認識をしている。これまで身体拘束の事例は無い。言葉等による心の拘束も無いように常に留意している。玄関の施錠はしていないが、センサーは設置している。外に出る利用者には職員が連れ添い、見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての研修会をおこない、マニュアルに沿って高齢者虐待防止に努めている。	高齢者虐待防止についての研修会をおこない、マニュアルに沿って高齢者虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を実施している。必要があれば家族へ情報提供を行っている。	勉強会を実施している。必要があれば家族へ情報提供を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面に添って説明を十分に行い、疑問点を尋ね、理解を得るようにしている。	書面に添って説明を十分に行い、疑問点を尋ね、理解を得るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(一丁目)	自己評価／ユニットB(二丁目)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会やサービス担当者会議などの際に、家族の意見や不満などをゆっくり聴ける機会をもうけている。玄関に意見箱を設置している。	家族会やサービス担当者会議などの際に、家族の意見や不満などをゆっくり聴ける機会をもうけている。玄関に意見箱を設置している。	利用者との面会時や、ホームへ来所された家族に、笑顔で丁寧に対応し、何でも相談や要望が言える雰囲気づくりを心掛けている。利用者と一緒に家族同士の交流会で、本音を聴ける機会もある。電話等でも細やかに連絡をとっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、相談会を開催しており意見交換している。また、個人面談の機会を設け意見を聴いている。	毎月、相談会を開催しており意見交換している。また、個人面談の機会を設け意見を聴いている。	定例の会議(相談会)では、支援や業務の改善に向けての課題、行事計画や改善点を出し合っている。経験の豊富な介護士とそうでない介護士との意見交換や助言等の機会でもある。転倒、転落防止の具体的な対策を家族に相談し了承を受けることや、家族同士の交流会は、職員のやってみようという発想から生まれた。個人面談では、仕事の内容の評価やプライベートを含めて意見を聴いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期毎に個人目標を設定し努力を評価し、就業内容などを総合的に評価している。	半期毎に個人目標を設定し努力を評価し、就業内容などを総合的に評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数により法人内コース研修を実施したり、全職員対象の研修会を行ったり、法人外研修への参加を促し内容によっては研修費の補助を行い学習への参加を促している。	経験年数により法人内コース研修を実施したり、全職員対象の研修会を行ったり、法人外研修への参加を促し内容によっては研修費の補助を行い学習への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム交流会に参加し、情報交換をおこなっている。他事業所のイベントに参加している。	地域のグループホーム交流会に参加し、情報交換をおこなっている。他事業所のイベントに参加している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(一丁目)	自己評価／ユニットB(二丁目)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より事前に訪問し、入居後も情報を元に深く関わり、入居者の事をより理解できるよう努めている。	入居前より事前に訪問し、入居後も情報を元に深く関わり、入居者の事をより理解できるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の苦労や不安を十分に聞く機会をもち、受け止める努力をしている。	家族の苦労や不安を十分に聞く機会をもち、受け止める努力をしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話す機会を十分に設け、求めに応じ安心して暮らせる事を伝え、受け止める努力をしている。	話す機会を十分に設け、求めに応じ安心して暮らせる事を伝え、受け止める努力をしている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯、調理、趣味活動など生活を共に過ごし、できるだけ寄り添えるように努力している。	掃除、洗濯、調理、趣味活動など生活を共に過ごし、できるだけ寄り添えるように努力している。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月々の行事予定をご案内したり日々の様子をお伝えしたり、誕生日を一緒にお祝いしたりと家族とともに支援していけるようにしている。	月々の行事予定をご案内したり日々の様子をお伝えしたり、誕生日を一緒にお祝いしたりと家族とともに支援していけるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(一丁目)	自己評価／ユニットB(2丁目)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方の家族にも日々の活動の様子を写真つきで送付したり、面会に来ていただいたり、積極的に訪問したり関係性が途切れないよう支援している。	遠方の家族にも日々の活動の様子を写真つきで送付したり、面会に来ていただいたり、積極的に訪問したり関係性が途切れないよう支援している。	近くの福祉施設を知り合いが利用している時はその方を訪ねる等の機会を設けている。買い物や行きつけだった美容室を利用する方もある。自宅近くの地域をまでドライブしたり、自宅まで何回も何回も一緒に歩いての支援をしたこともある。彼岸にお墓参りをする利用者もあり、家族の協力を得て支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士同じテーブルにしたり、作業や活動をテーブルを囲んで出来るよう支援し、孤立する方がいないよう支援している。	気の合う方同士同じテーブルにしたり、作業や活動をテーブルを囲んで出来るよう支援し、孤立する方がいないよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同じ敷地内の老健への入所の場合は面会に行き、積極的に訪問したりしている。必要があれば電話をしたり面会したりしている。	同じ敷地内の老健への入所の場合は面会に行き、積極的に訪問したりしている。必要があれば電話をしたり面会したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中での会話や行動、以前の生活歴より本人の思いを把握して、支援できるよう努力している。	日々の生活の中での会話や行動、以前の生活歴より本人の思いを把握して、支援できるよう努力している。	毎日の暮らしの中での会話、つぶやき、目線、ちょっとした表情の変化、行動からも利用者の思いを把握し、その後の支援に活かすように努めている。朝の集まりの時間に、今日の希望をたずねている。利用者の担当制をとっており、得られた情報は共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活史や生活歴を作成し、日々の会話を行う事でその時の様子をより詳しく知るよう努めている。	一人ひとりの生活史や生活歴を作成し、日々の会話を行う事でその時の様子をより詳しく知るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(一丁目)	自己評価／ユニットB(二丁目)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当者がアセスメントを行い、カンファレンスを行い、本人の状況を全体で把握できるよう努めている。	担当者がアセスメントを行い、カンファレンスを行い、本人の状況を全体で把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なケアカンファレンス、担当者会議を行い、それぞれの意見をもとに介護計画を作成している。	定期的なケアカンファレンス、担当者会議を行い、それぞれの意見をもとに介護計画を作成している。	利用者と家族の意向をきちんと受け止め、具体的で実現可能な目標が設定された介護計画である。毎日の目標の積み重ねを、定期的、或いは随時の評価に活かしている。ホーム独自で様式を工夫したシート(C/PATT)は、多様な項目を3ヶ月ごとにグラフ化され、利用者の状況変化が解かり易く、担当者会議での重要な情報となっている。家族とも丁寧な説明や話し合いが行われ、了解をいただいている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいた日々の記録が出来ており、ケアの実践、見直しに活かしている。	ケアプランに基づいた日々の記録が出来ており、ケアの実践、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他事業所へのレクリエーション参加、出張散髪の利用、自宅への外出などをおこなっている。	他事業所へのレクリエーション参加、出張散髪の利用、自宅への外出などをおこなっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の商店に買い物に行ったり、外食したりしている。	地域の商店に買い物に行ったり、外食したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(一丁目)	自己評価／ユニットB(二丁目)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの専門医への受診の継続や必要時は本人、家族のきぼうに添って適切な医療が受けられるよう配慮している。	入居前からの専門医への受診の継続や必要時は本人、家族のきぼうに添って適切な医療が受けられるよう配慮している。	利用者、家族の希望するかかりつけ医での受診であるが、結果的には協力医療機関を利用する利用者がほとんどである。協力医療機関とは24時間体制で相談ができる関係にある。月に2回の定期的な往診もある。内科以外の受診には家族が付き添うが、それができない時はスタッフが支援している。訪問歯科による治療や診察も支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を常勤配置している。日常の身体的変化を相談し、看護師は主治医へと報告、相談している。	看護職員を常勤配置している。日常の身体的変化を相談し、看護師は主治医へと報告、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換を行い、家族とも相談しながら適切な期間で退院できるように努めている。	医療機関との情報交換を行い、家族とも相談しながら適切な期間で退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族、主治医と相談しながら方針を決め、共有し支援に取り組んでいる。	本人や家族、主治医と相談しながら方針を決め、共有し支援に取り組んでいる。	利用開始にあたって利用者、家族と十分な話し合いがもたれている。きちんとしたターミナルケア(看取り介護)の指針があり、納得された家族からは同意書ももらっている。昨年から今年にかけて、看取った利用者が数名ある。いずれの事例も家族の意向を状況に応じて確認している。主治医、スタッフが方針を共有して最期に臨んでいる。スタッフに対しては、ホーム長が常に見守っている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(一丁目) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2丁目) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練が出来ていないため、今後勉強会の計画、実施が必要。BLSの資格取得を奨励して、受講している。	定期的な訓練が出来ていないため、今後勉強会の計画、実施が必要。BLSの資格取得を奨励して、受講している。	/	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は地元消防団・消防署の協力により、定期的に行っているが、地震、水害についても訓練が必要。	火災訓練は地元消防団・消防署の協力により、定期的に行っているが、地震、水害についても訓練が必要。	消防計画に基づき、ホーム単独では年2回(法人全体としては年6回)の火災想定避難訓練が実施されている。夜間を想定して、周囲が暗くなった夕刻に行っている。地形の特徴から想定される水害、ため池決壊による山津波に対しては、地域や行政と協力しての対策を練っている。非常食等も備蓄されている。計画していた地震想定避難訓練が諸事情でできなかったが、今後実施する予定である。防犯対策として、法人施設全体の入口に、防犯カメラが設置されている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけする時は近くに行って話しかけるよう心がけている。	言葉かけする時は近くに行って話しかけるよう心がけている。	利用者の尊厳の尊重は、事業所開設以来の大原則である。「言葉づかいを改善するための訓練」もその具体的な実践例の一つである。心の声を受け止める。気持ちの無視をしない。耳を傾ける。命令口調にならない。嫌な気持ち、恥ずかしい思いをさせないなどを接遇の一つとして、利用者として接している。夜間の勤務の手薄さを補うために、録画機能のないカメラ、モニターをプライバシーに十分配慮しつつ、廊下に設置している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度本人の思いや希望を尋ねたり、話しかけたりし本人の意思を表現できるようにしている。	その都度本人の思いや希望を尋ねたり、話しかけたりし本人の意思を表現できるようにしている。	/	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(一丁目)	自己評価／ユニットB(2丁目)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々の様子や希望に沿ってその日その日に合わせた支援が出来るよう努めている。	その時々様子や希望に沿ってその日その日に合わせた支援が出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人用の化粧品を準備したり、髪染めをしたり、おしゃれしてお出かけしたり、その人らしい生活ができるよう支援している。	本人用の化粧品を準備したり、髪染めをしたり、おしゃれしてお出かけしたり、その人らしい生活ができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの能力に応じた準備や片付けを行ってもらっている。	それぞれの能力に応じた準備や片付けを行ってもらっている。	数年前までは、ホームの台所で調理をしていたが、現在は朝食のみで、昼食と夕食は法人の厨房で調理したものを配膳している。食事中は職員も利用者の中に入り、それとなく見守りながらの支援である。会話を交わしたり、利用者と同じ目の高さで食事の介助をしている。献立は管理栄養士が立てているが、リクエスト食や行事にちなむ献立も準備されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせ食事量にこだわらず、補助食や嗜好品をあわせて提供することにより、必要なカロリーや水分量が摂取できるよう支援している。	一人ひとりの状態に合わせ食事量にこだわらず、補助食や嗜好品をあわせて提供することにより、必要なカロリーや水分量が摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに対し言葉をかけ援助を行い、口腔ケアができるようにしている。	毎食後、一人ひとりに対し言葉をかけ援助を行い、口腔ケアができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(一丁目)	自己評価／ユニットB(二丁目)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用しその人その人に合わせて支援することで、トイレで不安を与えることなく排泄でき、なるべくオムツを使用しないよう支援している。	排泄チェック表を使用しその人その人に合わせて支援することで、トイレで不安を与えることなく排泄でき、なるべくオムツを使用しないよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンや習慣が細かく把握されており、支援に活かされている。できるだけトイレ使用を基本にしており様々な支援で自立へ向けて改善が見られた利用者もある。夜間は、把握している排泄パターンやセンサー、2時間ごとの見回り等で排泄支援に結び付けている。ポータブルトイレの使用があった場合は、時間をおかずに処理している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を毎日チェックし、一人ひとりについて対応方法が決まっている。便秘傾向の方には水分摂取や運動を促している。	排便状況を毎日チェックし、一人ひとりについて対応方法が決まっている。便秘傾向の方には水分摂取や運動を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望があれば対応したり体調に合わせて入浴する日を調整したりしている。	希望があれば対応したり体調に合わせて入浴する日を調整したりしている。	基本的には週3日の入浴だが、希望する方は毎日でも入浴できる。入浴の時間帯は以前は午後であったが、入浴者を多くするために現在は午前中から入浴の支援をしている。入浴順、入浴時間等に特別の決まりはない。入浴を断られる方には気分を変えてもらったり、入浴日を変えたりして対応している。車椅子の方は、シャワーと足浴を組み合わせで支援している。ヒートショックにもきちんとした配慮がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に合わせて眠りたい時に安心できる場所で休息できるよう支援している。	一人ひとりの状況に合わせて眠りたい時に安心できる場所で休息できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(一丁目)	自己評価／ユニットB(二丁目)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ノートを活用したり、服薬管理表や熱型表、情報用紙などに記載し、一人ひとりの薬の内容を理解し、症状の変化が観察できるようにしている。	お薬ノートを活用したり、服薬管理表や熱型表、情報用紙などに記載し、一人ひとりの薬の内容を理解し、症状の変化が観察できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜を作ったり家事に参加したり、趣味を活かしたり、好きなものを食べたり、天気の良い日は散歩や外出を行い楽しく過ごせるように支援している。	野菜を作ったり家事に参加したり、趣味を活かしたり、好きなものを食べたり、天気の良い日は散歩や外出を行い楽しく過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内を自由に散歩できたり、希望があれば家族と協力し自宅へ外出したり出来るようにしている。	敷地内を自由に散歩できたり、希望があれば家族と協力し自宅へ外出したり出来るようにしている。	複合施設がある広い敷地内を散歩することが多い。車椅子利用の方も一緒に散歩に出かけて外の空気を味わっている。芝生やベンチでゆっくりと休む利用者もある。家族等の協力も得ながら近くの神社や公園に弁当を持って、花見や、つつじ、菖蒲、紅葉の見学、外食等に出かけている。希望によって初詣やドライブも楽しんでいる。その際、お気に入りの服装やお化粧の支援もしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方がスタッフ管理している。外出先では財布を渡し、支払ってもらう事がある。	ほとんどの方がスタッフ管理している。外出先では財布を渡し、支払ってもらう事がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や贈り物が届くとお礼の電話をかけたり友人や家族への手紙を出せるよう支援している。	手紙や贈り物が届くとお礼の電話をかけたり友人や家族への手紙を出せるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(一丁目)	自己評価／ユニットB(二丁目)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や貼り絵を飾ったり写真を飾ったり、テレビの音やカーテンでの光の調整を行い心地よく過ごせるようにしている。	季節の花や貼り絵を飾ったり写真を飾ったり、テレビの音やカーテンでの光の調整を行い心地よく過ごせるようにしている。	室内は自然の光で明るく、外からの騒音も無く静かである。夏場は広い窓から差し込む西日をブラインドで遮っている。フロアはテーブルやソファが工夫して配置されており、利用者は横になって休んだり、気にいった場所で、ゆっくりとくつろいでいる。この季節ならではの雛飾りが季節感を醸し出している。温度計、湿度計を利用しての室温や湿度が、居心地の良い環境を作りだしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座ったり、気の合う方のテーブルへ自由に移動したり、促したりして落ち着いて過ごせるよう支援している。	ソファに座ったり、気の合う方のテーブルへ自由に移動したり、促したりして落ち着いて過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際や面会時に家族と相談し、なじみの家具を配置し、写真や手紙、その方の作品などを飾り、居心地良く過ごせるよう工夫している。	入居の際や面会時に家族と相談し、なじみの家具を配置し、写真や手紙、その方の作品などを飾り、居心地良く過ごせるよう工夫している。	馴染みや好みの物の持ち込みには特に制限はない。各利用者や家族が持ってきたテレビ、家族の写真、使い慣れた机、椅子、手鏡、その他色々な物を見受けることができる。あまり品物が多いと却って混乱することもあるので、家族の理解を得て、居室がある程度すっきりと整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室など分かりやすく表示したり、日時や時計を見やすい所に設置することで理解し行動しやすいように支援している。	トイレや浴室など分かりやすく表示したり、日時や時計を見やすい所に設置することで理解し行動しやすいように支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない